

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織 国際関係学部

基準 1 理念・目的

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0102	学部パンフレットに示されている教育理念の部分に教育方針と教育理念の記述が混在している点について、改善が求められる。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
2020年度までに学部パンフレットの作成・更新を中止している(学部ウェブサイトで電子版の公開は継続している)。教育方針と教育理念の記述の混在は、2022年度までの『学生便覧』において見られるものである[0102a p.133]。そこで2022年度に学部執行部が『学生便覧』の文言を再検討し、「学部および学科ごとの教育研究の目的」の項目において、教育理念の記述とは別に国際関係学部・国際学科の「教育研究上の目的」を示すよう修正し、改善をはかった。2023年度の『学生便覧』より改正版が掲載されている[0102b p.9]。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0102	「教育理念・使命」はクリアファイルやポスターで学生に明確に伝えている。学部HPでは、教育理念と教育方針の記述が混在してややわかりにくいので改善の余地がある。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
教育方針と教育理念の記述の混在は、2022年度までの『学生便覧』において見られるものである[0102a p.133]。そこで2022年度に学部執行部が『学生便覧』の文言を再検討し、「学部および学科ごとの教育研究の目的」の項目において、教育理念の記述とは別に国際関係学部・国際学科の「教育研究上の目的」を示すよう修正し、改善をはかった。2023年度の『学生便覧』より改正版が掲載されている[0102b p.9]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0101	【新学科・新専攻設置時のみ】 大学の基本理念・使命・教育目的を適切に設定していますか。また、それを踏まえ、学部・研究科の教育研究上の目的を適切に設定していますか。	自己評価
評価の視点	(2)学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的は、教育組織の特色を明確にしたものですか。 (3)学部(学科)・研究科(専攻)の育成する人間像は、明確ですか。 (4)学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的と大学の基本理念・使命・教育目的は、関連性がありますか。		

現状説明
新学科設置なし

自己点検・評価項目	0102	大学の基本理念・使命・教育目的および学部・研究科の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員および学生に周知し、社会に対して公表していますか。	自己評価	A
評価の視点		(1)学部(学科)・研究科(専攻)の教育研究上の目的や人間像は、適切な媒体を使って明示していますか。 ・明示媒体(例えば学生便覧やWebサイトなど)間の記述の統一 (2)刊行物、Webサイト等により大学の基本理念・使命・教育目的、学部・研究科の教育研究上の目的等を周知・公表していますか。 ・学生・教職員への周知 ・社会に対しての公表		
現状説明				
(1) 大学HP(「教育研究上の目的」)[0102c]に学部の教育上の目的や人間像が明示されている。『学生便覧』では22年度までは「国際学科の教育方針」が掲載されている(2023年度より修正されたことは上述の通り)[0102a p.133]。 (2) 大学HPにて3ポリシーを[0102d]、学部HPにて学部・研究の教育研究上の目的などを周知・公表している[0102e]。このように一定水準で公表しているが、内容の継続的的点検が行われているわけではない。但し、学部HPは更新頻度が高く、在学生や社会への発信が継続的に行われている。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0102	学部HPは更新頻度が高く、在学生や社会への発信が継続的に行われている

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み(予定)および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0101	学生便覧における学科の目標・教育方針の継続的な点検
今後の改善・向上方策	
2022年度中に学部執行部が、『学生便覧』の文言を再検討し「学生便覧における国際学科の目標と教育方針を以下のように変更し、目標を明確にした。「・・・英語・中国語を中心とした外国語の修得とともに国際的な知識や視野を備え、国際社会で幅広く活躍できるグローバル人材育成を目標としています」[0102a p.9]。しかし今後も、学科の目標や教育方針を定期的に点検して行く必要がある。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0101	学部HPの内容の点検
今後の改善・向上方策	
「教育理念・使命」は学部HPでは明記しておらず、改善の必要がある。在学生、受験生に正しく伝えることができるよう、継続的に点検を行うようにしたい。	

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	国際関係学部
--------	--------

基準 2	内部質保証
------	-------

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0203	本受審以外に外部審査を受けていない。PDCA サイクルを回すためにも外部評価受審が望ましい。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
本受審以外に外部審査を受けていない。先例が無く、外部評価受審については検討が手つかずの段階である。情報収集から始めて行く必要がある。	

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0203	「卒論閲覧会」を記録で残し、その機能の有効性を点検する仕組みが必要である。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
「卒論閲覧会」を2020年から毎年行い記録を残している。提出されたすべての卒業論文を机に並べて、参加した教員が目を通していき、というかたちで実施され、その席上で、卒論指導に関する教育上の課題など機能の有効性を点検する仕組みが作られている[0203a] [0203b]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0203	方針および手続きに基づき、内部質保証システムは有効に機能していますか。	自己評価	C
評価の視点	(5)外部評価を自己点検・評価に取り入れていますか。 ・学内のピアレビューは含まない			
現状説明	外部評価を自己点検・評価に取り入れていない。今後の検討課題であり、情報収集から始めて行く必要がある。			

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0203	卒論閲覧会の開催（卒論指導に関する教育上の課題などを検討する場になっている）

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0203	外部評価の受審
今後の改善・向上方策	
外部評価受審については検討が手つかずの段階である。情報収集から始めて行く必要がある。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0203 外部評価を自己点検・評価に取り入れていない。学部内で卒論閲覧会を行っているが、外部評価は行われていない。卒論以外の授業科目を含めて内部質保証は手つかずであり、具体的手法など情報収集を進める必要がある。	
長所・特色	
0203 学部内卒論閲覧会の導入。	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項	
0203 外部評価の手法について情報収集を行う【B】。	

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		
		追加資料なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	国際関係学部
--------	--------

基準 4 教育課程・学習成果 (1)

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0403	「カリキュラムマップ」及び「履修モデル」などについて、学生に対して教育課程がより伝わりやすくするための工夫が求められる。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
「カリキュラムマップ」及び「履修モデル」の基となる「カリキュラム・ツリー」案を試作し[0403a]、教授会で検討した[0403b]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0401	授与する学位ごとに、学位授与の方針（DP）を定めて、公表していますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)授与する学位ごとに、当該学位にふさわしい学習成果（課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等）を明示したDPを適切に設定していますか。 (2)授与する学位ごとに、DPを社会に対して公表していますか。			
現状説明				
(1)多ディシプリンの特徴を有する本学部の教育に則した形での抜本的見直しと改訂を進めており、教授会での検討結果を学部学科DPとして在学生に「学生便覧」で示している[0401a][0401b][0401c]。 (2)「中部大学情報公表」ウェブサイトにより、(1)で作成したDPを社会に対し公表している[0401d]。				

自己点検・評価項目	0402	授与する学位ごとに、教育課程編成・実施の方針（CP）を定めて、公表していますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)授与する学位ごとに、教育課程の体系、教育内容を備えたCPを設定していますか。 (2)授与する学位ごとに、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等を備えたCPを設定していますか。 (3)授与する学位ごとに、CPを社会に対して公表していますか。 (4)CPとDPの連関性は適切ですか。 ・CPとDPの整合性			
現状説明				

- (1)・(2)「学生便覧」により、教育課程の体系や教育内容、授業科目区分や授業形態等を備えた学部学科のCPを在
 学生に示している[0401c pp.3-4]。
 (3)「中部大学情報公表」ウェブサイトにより、CPを社会に対し公表している[0401d]。
 (4)CPとDPの連関性は適切に保たれているが、多ディシプリンの特徴を有する本学部の教育に、より則した形での
 抜本的見直しと改訂の一環としてカリキュラム・ツリーを試作し[0403a]、教授会で検討した[0403b]。

自己点検・ 評価項目	0403	教育課程編成・実施の方針(CP)に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開 設し、教育課程を体系的に編成していますか。	自己 評価	B
評価の視点		(1)CPと教育課程の整合性はとれていますか。 (2)教育課程の編成にあたっての順次性および体系性への配慮をしていますか。(ナンバリング、カリキュ ラムマップ) (3)単位制度の趣旨に沿った単位の設定をしていますか。 ・授業科目の性質、授業時間外に必要な学習を考慮した単位数の設定 (4)個々の授業科目の内容および方法は適していますか。 (5)授業科目の位置づけ(必修、選択等)は適切ですか。 (6)各学位課程にふさわしい教育内容を設定していますか。 【学士課程】 ・初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 【修士課程、博士課程】 ・コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等 (8)学生の社会的および職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育を適切に実施していますか。		
現状説明				
(1)「学生便覧」により、CPと教育課程の関連性を在学生に示している[0401c pp.3-4]。 (2)「科目ナンバリング表」により、すべての授業科目の分類・難易度等を在学生に示している[0403c]。あわせて「カ リキュラムマップ」を作成し、教育課程の編成における順次性や体系性への配慮・確認を行うとともに、オー ンキャンパス参加者にも示して教育課程の説明に用いている[0403d]。また、2022年度より多ディシプリンの特 徴を有する本学部の教育により則した形での抜本的見直しと改訂を進めカリキュラム・ツリーを試作し[0403a]、 教授会で検討した[0403b]。授業科目の精選を含め、引き続き主任会並びに教授会で改善を図っていく。 (3)(4)(5)「学生便覧」において授業科目の性質、授業時間外に必要な学習を考慮した単位数の設定、個々の授業科 目の内容及び方法、並びに授業科目の位置づけが適切である旨を示している[0401c pp.1-2, 9-10]。 (6)「学生便覧」において教養教育と専門教育の関連性を説明し[0401c pp.9-10]、「履修モデル」を用いて学科の人 材育成目標と授業科目との関連性をオープンキャンパス参加者に示しているが[0403e]、昨今の国際社会におけ るさまざまな変化等も踏まえ、国際学科発足前の旧三学科(国際関係学科・国際文化学科・中国語中国関係学科) から開講されてきた科目をどのように精選・充実させていくかは今後の検討課題である。また高大接続につい ては、中部大学第一高等学校3年生を対象に「生活環境と人間」などの科目を開講し、国際関係学部における学 びの広さを地域や学問分野の観点から示してきた。同校では、2022年度から普通科において従来の文理探究コ ースがグローバル系・文系・理系の3つに分かれたため[0403f]、そのうちグローバル系の学びについて学部として貢 献ができるよう、同校教員と連携し、国際を意識した学びの開発に取り組んでいく。 (8)初年次春学期のスタートアップセミナーにおいて、教育内容をさらに充実させる形でキャリアセンター職員によ る説明会や国際センター、卒業生による講演会などを実施し[0403g]、学生の社会的及び職業的自立を図るた めに必要な能力を育成する方法について示し、大学における学びの動機付けを図っている。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となる
 もの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0403	「履修モデル」を用いた学科人材育成目標と授業科目との関連性をオープンキャンパス参加者等に 表示

項目 No. 0403	スタートアップセミナーにおけるキャリアセンター職員の説明会や国際センター・卒業生の講演会の実施
-------------	-------------------------------------------------

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0403	教養教育と専門教育の適切な配置
今後の改善・向上方策	
昨今の国際社会におけるさまざまな変化等も踏まえ、旧三学科（国際関係学科・国際文化学科・中国語中国関係学科）から開講されてきた科目をどのように精選・充実させていくかは今後の検討課題である。主任会を中心に検討を進め、教授会においても議論を進める。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0403	高大接続への配慮
今後の改善・向上方策	
中部大学第一高等学校3年生を対象に「生活環境と人間」などの科目を開講し、国際関係学部における学びの広さを地域や学問分野の観点から示してきた。同校では、2022年度から普通科がグローバル系・文系・理系の3つに分かれたため[0403f]、そのうちグローバル系の学びについて学部として貢献ができるよう、同校教員と連携し、国際を意識した学びの開発に取り組んでいく。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0403 「カリキュラムマップ」を作成し、オープンキャンパス参加者にも示して教育課程の説明に用いる[0403d]、また、「履修モデル」を用いて学科の人材育成目標と授業科目との関連性をオープンキャンパス参加者に示しており[0403e]、いずれも、高校生の進路選択のミスマッチを防ぐことにも寄与し、特色ある企画である。	
0403 学生の社会的および職業的自立を図るために、卒業生による講演会などを実施しており[0403g]、在学生の学びの動議付けにつながる企画となっている。	
0403 昨今の国際社会におけるさまざまな変化等も踏まえ、旧三学科（国際関係学科・国際文化学科・中国語中国関係学科）から開講されてきた科目をどのように精選・充実させていくかは今後の検討課題であるとしており、大学全体での科目の精選が求められていることにも配慮し、検討の継続と科目整理が必要である。	
長所・特色	
0403 「カリキュラムマップ」を作成し、オープンキャンパス参加者にも示して教育課程の説明に用いる[0403d]、また、「履修モデル」を用いて学科の人材育成目標と授業科目との関連性をオープンキャンパス参加者に示しており[0403e]、いずれも、高校生の進路選択のミスマッチを防ぐことにも寄与し、特色ある企画である。	
0403 学生の社会的および職業的自立を図るために、卒業生による講演会などを実施しており[0403g]、在学生の学びの動議付けにつながる企画となっている。	
留意点	
*各項目に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
特になし	

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		
		追加資料なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	国際関係学部
--------	--------

基準 4 教育課程・学習成果 (2)

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0404	卒業論文の審査基準は策定したものの、中間発表会の運営方法についてはその運営規定が確認できない。その策定が望まれる。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
コロナ禍で大人数講義の開講が不可能であったのと同じく、学部百数十名が一堂に会しての中間発表会はこの2年間開催ができていない。2020年度にはオンラインでの開催を試行したので[0404a]、この数年間のオンライン講義におけるノウハウの蓄積も踏まえ、オンラインも含めた新たな形での開催方法につき、主任会を中心に検討を進める。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0404	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じていますか。	自己評価	A	
評価の視点	(1)【学部のみ】各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るため、1年間または学期ごとの履修登録単位数の上限設定等の措置を講じていますか。 (2)シラバスに次の内容を組み込んでいますか。また、授業はシラバスどおりに行われていますか。 ・授業の目的、達成目標、学習成果の指標、授業内容および方法、授業計画、授業準備のための指示、成績評価方法および基準等の明示 ・授業内容とシラバスとの整合性の確保 (3)授業計画や成績評価の方法を変更した際、学生への周知を適切に行っていますか。 ・授業内容・方法の変更等に伴う対応 (4)学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法を講じていますか。 ・教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保 ・グループ活動の活用 (5)学生の理解度、学習の進捗を適切に確認、把握していますか。 (6)課題の量・質、フィードバックの方法は適切ですか。 (7)授業の編成および管理運営は適切に行っていますか。 【学士課程】 ・授業形態に配慮した1授業あたりの受講者数になるように授業の編成を行っていますか。				

	<ul style="list-style-type: none"> ・履修指導は適切に実施していますか。 <p>【修士課程、博士課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究指導計画（研究指導の内容および方法、年間スケジュール）を明示していますか。また計画に基づく研究指導を行うように取り組んでいますか。
現状説明	
<p>(1)1年間の履修登録単位数の上限設定を行い、学生便覧において学生に周知している[0404b p.2,10]。</p> <p>(2)(3)シラバスの記載内容については諸項目のチェックを執行部で行い、授業内容とシラバスの整合性の確保を確認するとともに、授業内容や方法の変更等についても「シラバス作成要領」を基に学生へ周知するよう教授会で説明し、確認している[0404c]。</p> <p>(4)(5)(6)3年次の国際専門演習や4年次の卒業研究といった授業に留まらず、1年次の国際基礎演習や2年次の国際応用演習A・Bといった少人数による演習科目を中心に、教員と学生はもとより、学生同士のコミュニケーション機会を確保するよう努め、グループでの学びも進めている。また、課題の量や質、フィードバックの方法についても授業担当者で振り返りを含めた情報交換を行い、改善に努めている[0404d][0404e][0404f]。</p> <p>(7)授業編成については授業形態に配慮した1授業あたりの受講者数になるよう、学科主任を中心に調整し、進行状況を教授会で報告するとともに確認・検討し、了承している[0404g][0404h]。履修指導については、学年毎に担当教員を決めてパワーポイントファイルを用いるなどして説明を行い、履修相談にも応じている[0404i]。</p>	

自己点検・評価項目	0405	成績評価、単位認定および学位授与は適切に行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	<p>(1)シラバスに掲げている「達成目標」に基づき、成績評価がなされていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバス記載の「達成目標」「成績評価方法」に基づく成績評価 <p>(3)成績評価の客観性、厳格性を組織的に確認していますか。</p> <p>(6)学位論文審査がある場合、学位論文審査基準が明確に示され、かつ公表されていますか。</p> <p>(7)学位審査および修了認定の客観性および厳格性を確保するために、評価の基準、評価のレベルを示したルーブリックを用いた評価がなされていますか。</p> <p>(8)学位授与に係る責任体制および手続きは明確に示されていますか。</p> <p>(9)適切な学位授与を行っていますか。</p>			
現状説明				
<p>(1)(3)(6)(7)(8)(9)シラバスに掲げている「達成目標」や「成績評価方法」に基づく成績評価がなされているかなどについては、1年次の国際基礎演習や2年次の国際応用演習A・Bといった少人数演習科目を中心に担当者間で振り返りなどを行い、確認している[0404d][0404e][0404f]。ただし3年次の国際専門演習は、本学科の学びが多ディシプリンで構成されるため必ずしも成績評価の客観性や厳格性を組織的に確認することができていない。卒業研究についてはルーブリックを2022年度から試行したが、実態に合わせ更なる検討が必要である[0405a]。学位授与に係る責任体制や手続き、学位の授与に関しては、教授会で確認した上で厳格に実施している[0405b]。</p>				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0404	<p>少人数による演習科目を中心に、教員と学生はもとより、学生同士のコミュニケーション機会を確保するよう努め、グループでの学びも進めている。また、課題の量や質、フィードバックの方法についても授業担当者で振り返りを含めた情報交換を行い、改善に努めている[0404d][0404e][0404f]。</p>
項目 No. 0404	<p>履修指導については、学年毎に教員を割り当て、パワーポイントファイルを用いるなどして説明を行い、履修相談にも応じている[0404i]。</p>
項目 No. 0405	<p>シラバスに掲げている「達成目標」や「成績評価方法」に基づく成績評価がなされているかなどについては、1年次の国際基礎演習や2年次の国際応用演習A・Bといった少人数演習科目を中心に担当者間で振り返りなどを行い、確認している[0404d][0404e][0404f]。</p>

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0405	3年次の国際専門演習は、本学科の学びが多ディシプリンで構成されるため必ずしも成績評価の客観性や厳格性を組織的に確認することができていない
今後の改善・向上方策	
国際学科におけるゼミナールの評価については、多ディシプリンであっても共通する部分を見出し、評価の基準を決める必要がある。主任会で検討し、教授会での議論を進める。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0405	卒業研究のルーブリックを2022年度から試行したが実態に合わせて更なる検討が必要
今後の改善・向上方策	
実際の評価時においてどのような問題点が発生したか、どのような点を改善すべきかについて教員から意見を集め、今年度の評価に向けて主任会を中心にルーブリックの修正を図り、教授会でも議論する。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0404	少人数による演習科目を中心に、教員と学生はもとより、学生同士のコミュニケーション機会を確保するよう努め、学生の理解度や進捗をみながらグループでの学びも進めていることは高く評価される。また、課題の量や質、フィードバックの方法についても担当者間で振り返りを含めた情報交換を行い、改善に努めている [0404d][0404e][0404f]。
0405	1、2年次の少人数演習科目を中心に担当者間で振り返りなどを行い、成績評価の公平性を担保するよう努力している [0404d][0404e][0404f]。
長所・特色	
0404	演習科目を中心に教員と学生間のコミュニケーション機会の確保とグループでの学びの促進、ならびに授業担当者間での振り返りによる情報交換 [0404d][0404e][0404f]。
0405	1、2年次の少人数演習科目を中心とした担当者間での振り返りによる成績評価の客観性の確認 [0404d][0404e][0404f]。
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	
	【A】・・・緊急の改善を要する事項
	【B】・・・検討を要する事項
0405	国際学科におけるゼミナールの評価については、多ディシプリンであっても共通する部分を見出し、評価の基準を策定する必要がある。【B】

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		
		追加資料なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	国際関係学部
--------	--------

基準 4 教育課程・学習成果 (3)

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0406	3年生についても学生の学習成果を測るための指標を定め、成果を確認することが望まれる
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
1年次「国際基礎演習」[0406a]、2年次「国際応用演習」[0406b][0406c]は統一シラバスのため担当者が定期的に会合を開き成績評価基準などが確認されているが、3年次の「国際専門演習」はシラバスが担当者毎に異なるため学修成果を測る統一的指標を定めることは議題に上がっていない。指標設定が適切か否かを含め、検討していく。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0407	学習成果測定結果に基づく教育課程の適切性についての点検
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
GPS-Academic の結果の分析に着手できていない。但し、2022年度より GPS-Academic の結果に関する学部学科内の情報共有が意識的に進められており、今後、分析を進めていく。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0406	学位授与の方針（DP）に明示した学生の学習成果を IR データも踏まえて適切に把握し、評価していますか。	自己評価	A
評価の視点	<p>(1) 学生の学習成果を測るための指標を定め、成果を確認していますか。</p> <p>(2) 【学部のみ】 成績分布、進級などの実績を学部・学科として把握していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習成果に関する情報の把握と共有 <p>(3) 学習成果を把握・評価するために、以下の方法を用いて改善・向上に取り組んでいますか。</p> <p>≪学習成果の測定方法例≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アセスメント・テスト（GPS-Academic） ・ ルーブリックを活用した測定 ・ 学習成果の測定を目的とした学生調査（学びに関する調査 等） ・ 卒業生、就職先への意見聴取 			
現状説明				

- (1) 低学年少人数演習授業である国際基礎演習、国際応用演習 A、国際応用演習 B の3つの授業すべてにおいて、担当教員による当該授業の総括・問題点抽出を行い、それらをフィードバックして自己点検・評価につなげている[0406a] [0406b] [0406c]。3年次の「国際専門演習」はシラバスが担当者毎に異なるため学修成果を測る統一的指標を定めることは議題に上がっていない。本学科の代表的な科目である「国際英語」については、英語教育委員会を学期毎に1度開催し、DP・CPに基づき、当該授業の総括・問題点の抽出・学生の状況についての取りまとめと申し送りが行われている[0406d]。
- (2) 進級に関する実績は教授会で学部・学科として把握しているが成績分布については共有されていない[0406e]。
- (3) ・2022年度からは意識的に「学びに関する調査」などの結果について学部・学科内で共有を進めている[0406f]。
 ・4年次の「卒業研究」については、学位授与の方針に直接かかわる卒業論文の評価のため、学部執行部を中心とした教員による「卒論閲覧会」を実施し、当該年度に提出されたすべての卒論を閲覧し、多ディシプリンの特徴を持つ本学部の卒論のあり方や評価の基準などについて議論を行った[0406g]。また、卒論評価ルーブリックが2022年に完成し、2022年度より試行された[0406h]。

自己点検・評価項目	0407	教育課程およびその内容、方法の適切性について、学位授与の方針（DP）、教育課程編成・実施の方針（CP）に基づき、IRデータも活用して定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	自己評価	B
評価の視点	(1)適切な根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価を行っていますか。 ・学習成果の測定結果の適切な活用 (2)自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。			
現状説明				
「学習成果の測定方法」として、2022年度より「学びに関する調査」の結果が意識的に共有され、「卒論ルーブリック」も試行版がようやく完成したが、それらを用いてどのように学修成果を改善・向上させていくのかの検討はこれからである[0406f] [0406h]。GPS-Academicの結果についても、分析に着手できておらず、教育課程およびその内容、方法の適切性についての検討を今後進めていく必要がある。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0406	低学年少人数演習授業である国際基礎演習、国際応用演習 A、国際応用演習 B の3つの授業すべてにおいて、担当教員による当該授業の総括・問題点抽出を行い、それらをフィードバックして自己点検・評価につなげている[0406a] [0406b] [0406c]。
項目 No. 0407	教員による「卒論閲覧会」を実施し、当該年度に提出されたすべての卒論を閲覧し、多ディシプリンの特徴を持つ本学部の卒論のあり方や評価の基準などについて議論を行った[0406g]。

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0406	3年生の学習成果を測るための指標の制定
今後の改善・向上方策	
3年次の「国際専門演習」はシラバスが担当者毎に異なるため学修成果を測る統一的指標を定めることは議題に上がっていない。指標制定の適切性も含めて検討していくことにしたい。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0407	教育課程およびその内容、方法の適切性の検討
今後の改善・向上方策	
「学習成果測定結果」として GPS-Academic の結果に関する分析に着手できておらず、教育課程およびその内容、方法の適切性の検討を今後進めていく必要がある。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0406 本学科の代表的な科目である「国際英語」については、英語教育委員会を学期毎に1度開催し、DP・CP に基づき、当該授業の総括・問題点の抽出・学生の状況についての取りまとめと申し送りが行われている[0406d]。	
0406 4年次の「卒業研究」については、学位授与の方針に直接かかわる卒業論文の評価のため、学部執行部を中心とした教員による「卒論閲覧会」を実施し、当該年度に提出されたすべての卒論を閲覧し、多ディシプリンの特徴を持つ本学部の卒論のあり方や評価の基準などについて議論を行った[0406g]。また、卒論評価ルーブリックが2022年に完成し、2022年度より試行された[0406h]。	
長所・特色	
0406 教員による「卒論閲覧会」を実施し、当該年度に提出されたすべての卒論を閲覧し、多ディシプリンの特徴を持つ本学部の卒論のあり方や評価基準の統一が特色である。	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
特になし	

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		
0406		2022年卒業論文閲覧会(写真)	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	国際関係学部
--------	--------

基準 5	学生の受け入れ
------	---------

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0501	ポートフォリオ入試以外の入試種別の選抜等の定期的検討
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
学部として重点を置くポートフォリオ入試については選抜方法について継続的な検討が行われているが、その他の入試種別については、必ずしも定期的な検討は行われていない。但し、入学生のフレッシュマンテストの結果と受験種別及び出身校を整理した学生情報の管理を継続して実施しており、クラス分けなどの参考資料にしている [0501a][0501b]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0501	入学者受入れの方針(AP) を定めて、公表していますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)学位授与の方針(DP)および教育課程編成・実施の方針(CP)を踏まえた方針となっていますか。 (3)【新学科・新専攻設置時のみ】社会に対し公表していますか。 (4)下記を踏まえたAPを設定していますか。 ・入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像 ・入学希望者に求める水準等の判定方法			
現状説明	(1) 中部大学情報公表ウェブサイトにより、APを社会に対し公表している[0501c]。 (4) ・ポートフォリオ入試方法をAPに言及しながら説明する学科独自の説明書を作成し、ガイダンスやオープンキャンパスで解説、配布した[0501d]。 ・過去の出願状況等を参考に指定校推薦基準の見直しを教授会で実施した[0501e]。			

自己点検・評価項目	0502	入学者受入れの方針(AP) に基づき、学生募集および入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施していますか。	自己評価	A
評価の視点	(1)AP と入試形態は整合していますか。 ・求める学生像と入試形態との整合性 (2)AP に基づき、大学教育を受けるための能力・適性等を判定できる入学者選抜の方法を採用しています			

	か。 ・教育課程編成・実施の方針（CP）との関連性
現状説明	
<p>(1) 個人情報の取扱いに注意しつつ、入学生が受験したフレッシュマンテストの結果と受験種別及び出身校を整理した学生情報の管理を継続して実施し、入試方法と成績の関係性など検証の材料としている[0501a][0501b]。中部大学第一高校からの入学生については、入学から卒業まで継続的にモニターを行い、随時高校側と情報交換を行っており、そのための資料を随時作成している[0502a][0502b]。</p> <p>(2) CP、DPの抜本的見直しと改訂を進め[0502c][0502d]、これに連携させる形でカリキュラム・ツリー[0502e]を試作し、教授会で検討した[0502f]。</p>	

自己点検・評価項目	0503	適切な定員を設定し、入学者の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していますか。	自己評価	B
評価の視点	<p>入学定員および収容定員の適切な設定と在籍学生数を管理していますか。</p> <p>【学士課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学定員に対する入学者数比率 ・編入学定員に対する編入学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数比率 ・収容定員に対する在籍学生数の過剰または未充足に関する対応 <p>【修士課程、博士課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収容定員に対する在籍学生数比率 			
現状説明				
入学定員の管理については教授会で検討がなされ、入試方式ごとに調整を行っているが[0503a]、収容定員という観点からの検討は行っていない。また、編入学定員についても例が乏しいことから検討は行われていない。				

自己点検・評価項目	0504	学生募集および入学者選抜は、入学者受入れの方針(AP)に基づき、IRデータも活用し、公正かつ適切に実施されているか定期的に検証を行っていますか。	自己評価	S
評価の視点	<p>(1) 学生募集や入学者選抜方法の適切性について検証していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会等における根拠資料に基づいた定期的な検証 <p>(2) 自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。</p>			
現状説明				
個人情報の取扱いに注意しつつ、入学生が受験したフレッシュマンテストの結果と受験種別及び出身校を整理した学生情報の管理を継続して実施し、入試方法と成績の関係性など検証の材料としている[0501a][0501b]。中部大学第一高校からの入学生については、入学から卒業まで継続的にモニターを行い、随時高校側と情報交換を行っており、そのための資料を随時作成している[0502a][0502b]。これら資料をもとに、語学や演習のクラス分けなど折に触れて参考資料としているが、定期的な検証は行っていない。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0501	学科アドミッションポリシーに言及しつつ学科独自のポートフォリオ入試方法について説明する国際学科独自の「ポートフォリオ入試」説明書の作成
項目 No. 0502	フレッシュマンテストの結果と受験種別及び出身校を整理した学生情報の管理
項目 No. 0502	中部大学第一高校出身入学生の継続的なモニターと資料作成・随時高校側との情報交換

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を

目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0501	ポートフォリオ入試以外の入試種別の選抜等の定期的検討
今後の改善・向上方策	
学部として重点を置くポートフォリオ入試については選抜方法について継続的な検討が行われているが、その他の入試種別においても学生募集および入学者選抜の方法全般における検証を教授会で定期的実施する必要がある。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0501 学部として重点を置くポートフォリオ入試については選抜方法について継続的な検討が行われているが、その他の入試種別については、検討は行われていない。0503 入学定員の管理については教授会で検討がなされ、入試方式ごとに調整を行っている。[0503a]	
長所・特色	
0501 入学生のフレッシュマンテストの結果と受験種別及び出身校を整理した学生情報の管理を継続して実施しており、クラス分けなどの参考資料にしている[0501a][0501b]。 0502 中部大学第一高校からの入学生については、入学から卒業まで継続的にモニターを行い、随時高校側と情報交換を行っており、そのための資料を随時作成している[0502a][0502b]。その点は学生の受け入れからその後の教育への結びつけができていない点で評価できる。	
留意点	
*各項に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
特になし	

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		
		追加資料なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	国際関係学部
--------	--------

基準 6 教員・教員組織

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0604	「国際関係学セミナー」「国際関係学部研究会」に関する記録（開催数、発表者、題目、概要、参加者数とその内訳など）が確認できない。記録を残し、その有用性等を検証する基礎資料とすることが必要である。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
国際関係学部 FD 研究会、国際関係学部 FD 講演会、国際関係学部セミナーについては、記録(開催数、発表者、題目、概要、参加者数とその内訳、ポスター)を残し、有用性を検証する基礎資料とした[0604a][0604b][0604c][0604d][0604e][0604f][0604g][0604h][0604i]。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0605	教員組織の適切性を検証する方法について検討する組織を明確にして、定期的に検討することが必要である。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
教員組織の適切性に関する検証方法の不足について 2021 年度および 2022 年度自己点検・評価シートにおいて課題事項となっていたが、2021 年度には、国際関係学部教員組織の点検・評価に関わる体制として、人事検討ワーキング・グループを発足し[0605b]、点検・評価を行なった。検証の結果に基づき検討を行い、人事計画書に沿った教員組織の構成実現に尽力した[0605c][0605d]。	

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0605	教授 13、准教授 5、講師 3 と教授数が多い。年齢構成の適切性に留意する必要がある。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
2023 年 4 月時点における教員組織は、教授 11、准教授 5、講師 3 となり教授数は減少した。年齢構成の適切性に関しては、新任専任教員の着任により年齢層の偏りが改善された[0605a]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の 4 段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0602	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制していますか。	自己評価	A
-----------	------	---------------------------------------------------	------	---

評価の視点	<p>(1)大学全体および学部・研究科等ごとの専任教員数は、適切ですか。</p> <p>(2)教育理念・目的を実現できる教員組織を編制していますか。(方針等に基づく組織編制の明確化)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員組織の編制に関する方針と教員組織の整合性 ・各学位課程の目的に即した教員配置 ・国際性、男女比 ・特定の範囲の年齢に偏ることのないバランスのとれた年齢構成に配慮した教員配置 ・各組織における将来計画の設定 ・教育上主要と認められる授業科目における専任教員（教授、准教授、講師または助教）の適正な配置 ・研究科担当教員の資格の明確化と適正な配置 ・教員の授業担当負担への適切な配慮
-------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

現状説明	<p>(1) 2023年4月時点の学部の専任教員数は19名、学生数は545人であることから、学生/教員比率は28.7人である。[0605a][0602a]。</p> <p>(2)授業科目と担当者の適合性は、授業編成の際、主任会議・教授会にて議論し調整を図った[0602b][0602c][0602d]。</p> <p>(2)教育上の特性を踏まえ、国際性を持つ教員構成となっている。外国人新任専任教員採用により国際性が増し、男女比も妥当である。教員年齢構成のバランスも改善された[0605a]</p> <p>(2)授業科目と専任担当教員の適合性は、授業編成の際、主任会議・教授会にて適切に判断されている[0602b][0602c][0602d]。</p> <p>(2)教員の授業担当負担は、授業編成の際、主任会議・教授会にて議論し配慮されている[0602b][0602c][0602d]。</p>
------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

自己点検・評価項目	0603	教員の募集・採用・昇格等を適切に行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	<p>(1)教員人事関連規程が整備され、適切な手続きによる運用をしていますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員の募集・採用・昇格等に関する規程の整備および手続きの設定 <p>(2)規程等に従った適切な教員人事（募集、採用、昇任等）を実施していますか。</p>			
現状説明	<p>(1)「国際関係学部昇格判定基準」を定めており[0603a]、これに基づき2021年度准教授への昇格人事を1件行った。</p>			

自己点検・評価項目	0604	ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上および教員組織の改善・向上につなげていますか。	自己評価	S
評価の視点	<p>(1)FD活動を組織的に実施していますか。</p> <p>(2)教員の教育活動、研究活動、社会活動等を評価し、その結果を活用していますか。</p>			
現状説明	<p>(1)学部教員と学生を対象とし、国際関係学部FD研究会、国際関係学部FD講演会、国際関係学部セミナー等を定期開催し、教員および学生の知見を深めた[0604a][0604b][0604c][0604d][0604e][0604f][0604g][0604h][0604i]。</p> <p>(2)中部大学教育活動顕彰制度、教員活動重点目標・自己評価シートを活用し、教員の資質向上に努めた[0604j][0604k][0604l][0604m]。</p>			

自己点検・評価項目	0605	教員組織の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	<p>適切な根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価を実施し、その結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。</p>			
現状説明	<p>教員組織の適切性について、上記の課題事項・ピアレビュー結果に対する改善・向上への取り組みに記したとおり、2021年度には、国際関係学部教員組織の点検・評価に基づき、人事検討ワーキング・グループを発足した[0605b]。検証の結果に基づき検討を行い、人事計画書に沿った教員組織の改善・向上に取り組んだ[0605c][0605d]。また、学部教員の全学および学部内の各種委員会の担当状況をまとめ、主任会議、教授会において確認することで、構成員の適性と負担の公平性に基づいた委員会運営を行なっている[0605e]。</p>			

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0604	教員・学生が参加可能な学部研究会の定期開催

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0602	教員配置の定期的点検と記録作成
今後の改善・向上方策	
本事項に関しては、2020 年度自己点検・評価において今後の改善向上計画にて指摘された点であるが、授業編成の際に今後も学位課程の目的に即した教員配置に努め、またバランスの取れた年齢構成に配慮した教員配置を点検し、記録を残すように改善を進めたい。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0605	教員組織の適切性に関する検証方法の改善
今後の改善・向上方策	
教員組織の適切性に関する検証方法についてさらに改善を進めたい。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
レビューなし	
長所・特色	
留意点	
*各項目に留意点レベルを記入	
	【A】・・・緊急の改善を要する事項
	【B】・・・検討を要する事項

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	国際関係学部
--------	--------

基準 7	学生支援
------	------

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0702	学生支援のための諸活動（課外見学など）が特定のゼミのゼミ活動となっているため、学部学科としての取り組みとしての実施もなされると良い。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
学部学科としての課外見学に関しては、新型コロナウイルス感染症の蔓延により実現が叶わなかった。今後は学部学科としての取り組みとして、リトルワールド研修の復活が望まれる[0702a]。学内における学部学科の取り組みとしては、国際関係学部セミナーが新入生歓迎企画として実施され、学生の啓発および新入生の交流の場を設けた[0702b][0702c][0702d][0702e][0702f][0702g]。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0702	前年度の自己点検・評価の評価結果（【留意点】等）では、「特になし」であった。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
学部学科の取り組みを見つめ直し、課題を見出すよう務め、課題を発見している。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0702	学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制を整備していますか。また、学生支援は適切に行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(2)学生の修学に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育 ・正課外教育 ・留学生等の多様な学生に対する修学支援 ・障がいのある学生に対する合理的配慮 ・成績不振の学生の状況把握と指導 ・留年者および休学者の状況把握と対応 ・退学希望者の状況把握と対応 (4)学生の生活に関する適切な支援を実施していますか。 <ul style="list-style-type: none"> ・学生の相談に応じる体制の整備 			

	<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメント（アカデミック、セクシュアル、モラル等）防止のための体制の整備および啓発活動 ・心身の健康維持・増進および安全への取り組み <p>(5)学生の進路に関する適切な支援を実施していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の実施 ・学生のキャリア支援を行うための体制（学部との協力・連携を含む）の整備 ・進路選択に関わる支援やガイダンスの実施 ・キャリア支援講座などの実施 <p>(6)【研究科のみ】学生の進路に関する適切な支援を実施していますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博士課程における、学識を教授するために必要な能力を培うための機会の設定または当該機会に関する情報提供 <p>(7)インターンシップを実施していますか。</p> <p>【学士課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・充実したインターンシップの実施 <p>【修士課程、博士課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施可能な体制の整備
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

現状説明	
	<p>(2) 学生の能力に応じた補修教育、補充教育および正課外教育に関しては、SA（スチューデント・アシスタント）の採用により受講生の理解を深めるための対応を行なった講義がある[0702h][0702i]。</p> <p>(2) 留学生等の多様な学生に対する学習支援については、学修ポートフォリオの確認や面談により行われており、指導報告書に記載された面談記録は Tora-Net（ウェブ学生サービスシステム）上にて、次の指導教員に引き継がれ、確認、検討後、学修支援を行っている[0702j]。</p> <p>(2) 障害のある学生に対する合理的配慮に関しては、学内の学生サポートセンターの協力により、指導教授と学生との面談、指導教授、学科主任、国際関係学部事務長、および学生サポートセンター職員によるミーティングを経て、障害のある学生の実情や「修学上の配慮依頼文書」の内容を検討の後、学生サポートセンターが同文書を講義担当教員へ配布している[0702k]。</p> <p>(2) 成績不振の学生の状況把握と指導については、指導教授名簿（学生名簿中）、退学者についての意見書、毎月の教授会での学生の移動の確認と指導教授による経緯説明、および学修ポートフォリオの活用により支援を行っている[0702l][0702m][0702n][0702o][0702p]。</p> <p>(2) 学科内で収集した学生一人ひとりについての就学状況情報を活用し、学期中を通して演習科目担当者が単位取得や出席状況に問題が見られる学生に対して個別面談により適宜指導している。退学希望者についても、同様に対応し、状況把握と対応を行なっている[0702q][0702r]。</p> <p>(4) 学生の相談に応じる体制の整備に関しては、3年生演習科目の所属を決定する際に、「国際専門演習 A・B 講義要綱」の中で、トラブルやハラスメント発生時の対応について明確に規定している[0702s p. 35][0702t][0702u]。</p> <p>(4) 学部独自のハラスメント研修を 2022 年度 3 回にわたり実施し啓発活動に努めた[0702v]。</p> <p>(5) 学生のキャリア支援を行うための体制については、毎月、教授会で学部キャリア開発担当教員から情報提供がなされている。また、進路選択に関わる支援やガイダンスについては、1年次スタートアップセミナーおよび2年次国際応用演習において、それぞれキャリアデザイン講習、キャリア支援課スタッフによる講演を企画している[0702q][0702r]。</p> <p>(7) インターンシップについては、適宜、キャリア支援課とも連携し、学部内ではインターンシップ推進委員の教員を中心に、教授会での情報共有がなされている[0702w]。</p>

自己点検・評価項目	0703	学生支援の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	(2)自己点検・評価の結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。			
現状説明				
(2) 学生支援の適切性については、特に支援を要する学生にまつわる指導報告書の点検の他、各学期開講の演習科目終了後の FD により学生の情報共有を行い、改善・向上に向けた取り組みに努力している[0703a][0703b][0703c]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0702	学科内で収集した学生一人ひとりについての就学状況情報の活用
項目 No. 0702	ハラスメント防止のため学部独自の啓発活動の実施

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0702	トラブルやハラスメント発生時の対応について学生への周知が不完全
今後の改善・向上方策	
ハラスメント防止のための体制の整備および啓発活動については、3年生演習科目の所属を決定する際に、「国際専門演習講義要項」の中で、トラブルやハラスメント発生時の対応について明確に規定しているが[0702d] [0702e] [0702f]、さらに学生の目のつく場所に規定を明記して周知の徹底を図る。	

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0702	キャリア支援の充実
今後の改善・向上方策	
本学部卒業生を招いたキャリア関連懇談会を開催するなど、コロナ禍に開催できなかった学生支援活動の開催を再度活性化させ、学部ウェブサイトでの情報発信に努める。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0702 学生の相談に応じる体制の整備に関しては、3年生演習科目の所属を決定する際に、「国際専門演習 A・B 講義要綱」の中で、トラブルやハラスメント発生時の対応について明確に規定している[0702s p.35][0702t][0702u]。 0702 学部独自のハラスメント研修を2022年度3回にわたり実施し啓発活動に努めた[0702v]、など、ハラスメントに対する意識がとても高い。 0702 入学から国際専門演習 A 履修までの期間についても、スタートアップセミナーの中でハラスメントに関する周知・指導がなされていることが確認できた[0702-追加 e] [0702-追加 f]。	
長所・特色	
0702 「国際専門演習 A・B 講義要綱」の中で、トラブルやハラスメント発生時の対応について明確に規定していることや、学部独自のハラスメント研修を2022年度3回にわたり実施し啓発活動に努めたことなど、トラブルの中でもハラスメントへの対応がしっかりとされていることは特色である。	
留意点	
*各項目に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項	
特になし	

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		
0702	追加 e	2023 年度スタートアップセミナー授業計画	○
0702	追加 f	appendix	○

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料

●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	国際関係学部
--------	--------

基準 8	教育研究等環境
------	---------

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0806	「語学ラボ」について、全学の語学教育エリアの検討と学生への周知や利用強化を検討
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
「語学ラボ」については2022・2023年度以降における教育研究に係る学部等重点事業計画案について、教授会で議論を行い、検討している [0806a] [0806b]。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0806	研究環境についての自己点検・評価の強化。特に研究時間の確保に関して
改善・向上への取り組みおよび進捗状況	*成果の有無を問わない
研究環境、特に研究時間の確保について教授会などでは議論が行われておらず、今後検討を行うようにする。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んでいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0802	教育研究等環境に関する方針に基づき、必要な校地および校舎を有し、かつ運動場等の教育研究活動に必要な施設および設備を整備していますか。	自己評価	B
評価の視点	(1)教育課程の特徴、学生数、教育方法に応じた施設・設備の充実を図っていますか。			
現状説明	語学ラウンジ（グローバルフォレスト（仮称））計画について教授会で情報共有し、20号館1階ラウンジの効果的な利用方法について教授会で議論が行われている [0802a]。			

自己点検・評価項目	0805	研究倫理を遵守するために必要な措置を講じ、適切に対応していますか。	自己評価	A
評価の視点	研究倫理、研究活動の不正防止に関する取り組みをしていますか。 ・研究倫理、研究活動に関する規程の整備 ・教員および学生における研究倫理確立のための機会等の提供（コンプライアンス教育および研究倫理教育の定期的な実施等） ・研究倫理に関する審査委員会等の設置			

現状説明				
主任会議、教授会で定期的に共有・点検をはかっている[0805a]。教授会でe-APRINの受検を薦めている[0805b]。				
自己点検・評価項目	0806	教育研究等環境の適切性について定期的に自己点検・評価を行っていますか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。	自己評価	A
評価の視点	適切な根拠資料に基づく定期的な自己点検・評価を実施し、その結果に基づき、各組織が改善・向上に取り組んでいますか。			
現状説明				
国際関係の研究に欠かせないのは在外研修（サバティカル）であり、効率的にサバティカルを利用できるよう教授会や主任会で検討を行い、ウェイティングリストを作成して調整を行っている[0806c]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0806	在外研修希望者のウェイティングリストの作成

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 0802	語学教育環境の整備推進
今後の改善・向上方策	
語学ラウンジ（グローバルフォレスト（仮称））計画について教授会で情報共有し議論を行っている [0802a]。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評	
0802 語学ラウンジ計画について教授会で情報共有・効果的な利用方法について議論されている点が、今後の発展に期待できる。しかしながら、語学ラウンジで何をどのように学ばせるのかについては、今後の課題であり、「語学ラボ」との関連性という点については、明確にされていない。	
長所・特色	
0802 語学ラウンジ計画が示され、20号館1階ラウンジの効果的な活用方法が検討されており、今後のさらなる発展という点から評価できる。また、0806「語学ラボ」が全学の語学教育エリアとしての学生への周知や利用強化が検討され、教育研究等の環境としてワンキャンパスの強みが示すことができると評価できる。	
留意点	
*各項目に留意点レベルを記入	【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項
特になし	

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出 区分
項目 No.	番号		
		追加資料なし	

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織 国際関係学部

基準 9 社会連携・社会貢献

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 0902	学部としての組織的な社会連携・社会貢献の実践
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
教員個人は、各種地域連携講座など、本学が大学として取り組む社会連携・社会貢献の活動に協力しているが [0902a][0902b][0902c][0902d]、学部としては組織的には実践しておらず、学部としてどのような社会連携・社会貢献が可能か検討を進めていく必要がある。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	0902	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していますか。また、教育研究成果を適切に社会に還元していますか。	自己評価	A
評価の視点	(2)社会連携・社会貢献に関する教育研究活動を組織的に推進していますか。 ・国際交流・地域交流事業への参加等			
現状説明	学部として組織的に実践しているわけではないが、各教員は積極的に社会連携・社会貢献に関する教育研究活動を推進している。たとえば、2022年度は智識の森開放講座・オンラインセミナーに本学部教員1名が講師として参加した [0902a]。春日井市が主催する市民環境アカデミーに本学部教員1名が講師として参加した[0902b]。2021年度は地域連携講座(1講座計1回)に本学部教員計1名が講師として参加し[0902c]、ジュニアセミナー地域連携講座(2講座・計2回)に本学部教員計2名が講師として参加した[0902d]。			

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となるもの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 0902	教員個人は積極的に社会連携・社会貢献に関する教育研究活動を推進している

2023年度 自己点検・評価シート

自己評価組織	国際関係学部
--------	--------

基準 11 大学独自の評価項目

I. 課題事項等への対応状況

直近の「自己点検・評価シート」の課題事項、ピアレビュー結果（留意点）を転記し、改善・向上への取り組みおよび進捗状況を記入してください。

<input type="checkbox"/> 課題事項	<input checked="" type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	英語教育委員会以外の学部内委員会の委員会規程等を整備し、議事録を作成して、業務内容を評価・検討する必要がある。
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
学部内委員会の規程整備は進んでおらず、業務内容の評価は行われていないので、改善を要する。但し、国際関係学部では臨機応変にアドホックの会合を開くことが多く、それにより機動力が最大限に確保されている。機動力を優先させた結果、形式的な議事録が残されない会議が存在している。	

<input checked="" type="checkbox"/> 課題事項	<input type="checkbox"/> ピアレビュー結果（留意点）
項目 No. 1120	教授会、主任会議すべてにおいて時間が長い
改善・向上への取り組みおよび進捗状況 *成果の有無を問わない	
過去3年間、コロナ禍もあり特別な対応を要する問題が山積していたために会議時間が長くなる傾向にあった。しかしその中でも、主任会議において教授会での議題の厳選、配付資料の事前配信など工夫を行うことで会議時間の短縮が意識されている [1120a]。	

II. 自己点検・評価

1. 現状説明と自己評価

「自己評価」欄に「S：高い水準で取り組んでおり、その取り組みが他の模範となりうる」「A：概ね取り組んでいるが、若干改善の余地がある」「B：取り組んではいるが、改善すべき点が多い」「C：今後取り組んでいく」の4段階で、対象年度における自己評価を記入してください。

「現状説明」欄に、それぞれの「自己点検・評価項目」について、対象年度における実施状況を「評価の視点」も踏まえて記入してください。

自己点検・評価項目	1120	管理運営組織および教育研究組織において、持続的に業務内容の点検を行っていますか	自己評価	A
評価の視点	(2)委員会活動の検証 ・開催、および議事録作成に関する手続きは、適切に行っていますか。			
現状説明				
教授会については、以前より議事録を作成しており、学部内で開催された委員会での検討・決定事項については、学部教授会での報告がなされており、教授会議事録に記載されている [1120b]。				

2. 長所・特色

各項目の「現状説明」の中で「先駆性や独自性があるもの、有意な成果がみられるもの、他の組織の模範となる

もの」を記入してください。

長所・特色 《箇条書き》	
項目 No. 1120	国際関係学部教授会の資料配布のデータ化と事前配信
項目 No. 1120	臨機応変でアドホックの会合の開催

3. 課題事項と今後の改善・向上方策

各項目の「現状説明」の中で「改善すべき点、向上すべき点」など、課題として認識した事項や、更なる向上を目指す事項について、現時点での改善・向上への取り組み（予定）および進捗状況を記入してください。

課題事項 《箇条書き》	
項目 No. 1120	学部内委員会の委員会規程等を整備し、議事録を作成
今後の改善・向上方策	
機動力を優先させることも大事だが、委員会の役割を見直し、議事録を作成することで議論の質的向上を図るよう改善をして行く必要がある。	

《以下はピアレビュー委員が記入します》

Ⅲ. ピアレビュー結果

総評
レビューなし
長所・特色
留意点
*各項に留意点レベルを記入 【A】・・・緊急の改善を要する事項 【B】・・・検討を要する事項

根拠資料 No.		ピアレビューにより追加された根拠資料の名称	提出区分
項目 No.	番号		

提出区分 … ○：本シートと一緒に提出する資料
●：提出するが評価者以外の閲覧を不可とする
△：現部署で保管

2023年度 自己点検・評価シート 根拠資料一覧

組織名

国際関係学部

基準 (シートNo.)	根拠資料No.		根拠資料の名称	提出 区分
	項目No.	記号		
1. 理念・目的 (NF0101)	0102	a	国際関係学部0102a: 『2022年度学生便覧』	○
	0102	b	国際関係学部0102b: 『2023年度学生便覧』	○
	0102	c	国際関係学部0102c: 大学HP「教育研究上の目的(国際関係学部)」 https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/undergraduate-list/international/	○
	0102	d	国際関係学部0102d: 大学HP「3つのポリシー(国際関係学部)」 https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/international/	○
	0102	e	国際関係学部0102e: 国際関係学部HP https://www.chubu.ac.jp/academics/international/	○
2. 内部質保証 (NF0201)	0203	a	国際関係学部0203a: 2020年度第12回国際関係学部教授会議事録	○
	0203	b	国際関係学部0203b: 2021年度第13回国際関係学部教授会議事録	○
4. 教育課程・学習成果(1) (NF0401)	0401	a	国際関係学部0401a: 2022年度第5回国際関係学部教授会議事録	○
	0401	b	国際関係学部0401b: 2022年度第8回国際関係学部教授会議事録	○
	0401	c	国際関係学部0401c: 2023年度学生便覧 国際関係学部	○
	0401	d	国際関係学部0401d: 中部大学情報公表ウェブサイト https://www.chubu.ac.jp/about/facts-figures/study/3policy/international/	○
	0403	a	国際関係学部0403a: 23.03.17_国際学科カリキュラム・ツリー(23.03.17提出)	○
	0403	b	国際関係学部0403b: 2022年度第13回国際関係学部教授会議事録	○
	0403	c	国際関係学部0403c: 科目ナンバリング表	○
	0403	d	国際関係学部0403d: カリキュラムマップ	○
4. 教育課程・学習成果(2)	0403	e	国際関係学部0403e: 国際関係学部国際学科履修モデル	○
	0403	f	国際関係学部0403f: 中部大学第一高等学校普通科文理探究コース https://www.chubu-ichi.ed.jp/main/college/general/bunri/	○
	0403	g	国際関係学部0403g: 2022年度スタートアップセミナー授業計画	○
	0404	a	国際関係学部0404a: 卒業論文中間発表会ポスター	○
	0404	b	国際関係学部0404b: 2023年度学生便覧 国際関係学部	○
	0404	c	国際関係学部0404c: シラバス作成要領2023	○
	0404	d	国際関係学部0404d: 2022年度国際基礎演習振り返り	○
	0404	e	国際関係学部0404e: 2022年度国際応用演習A FD資料_ver2	○
	0404	f	国際関係学部0404f: 2022年度国際応用演習B振り返り	○
	0404	g	国際関係学部0404g: 2023年度授業編成案	○
	0404	h	国際関係学部0404h: 2022年度第6回国際関係学部教授会議事録	○
4. 教育課程・学習成果(3) (NF0403)	0404	i	国際関係学部0404i: 1年生オリエンテーション(配布版)	○
	0405	a	国際関係学部0405a: 国際学科卒業論評評価ルーブリック(試行版)	○
	0405	b	国際関係学部0405b: 2022年度卒業判定資料	○
	0406	a	国際関係学部0406a: 2022年度国際基礎演習振り返り	○
	0406	b	国際関係学部0406b: 2022年度国際応用演習A振り返り	○
	0406	c	国際関係学部0406c: 2022年度国際応用演習B振り返り	○
	0406	d	国際関係学部0406d: 2022年度英語教育委員会議事録③20221026	○
	0406	e	国際関係学部0406e: 2022年度第12回国際関係学部教授会議事録	○
4. 教育課程・学習成果(4)	0406	f	国際関係学部0406f: 国際学科主任から学部教職員宛メール(22.11.10付)	○
	0406	g	国際関係学部0406g: 2021年度第10回国際関係学部教授会議事録	○
	0406	h	国際関係学部0406h: 国際学科卒業論評評価ルーブリック(試行版)	○
	0501	a	国際関係学部0501a: 2022スタートアップセミナークラス分け	△
	0501	b	国際関係学部0501b: 国際関係学部学生情報(取り扱い注意)	△
4. 教育課程・学習成果(5)	0501	c	国際関係学部0501c: 3つのポリシー(国際関係学部国際学科)	○
	0501	d	国際関係学部0501d: ポートフォリオ入試 虎の巻	○
	0501	e	国際関係学部0501e: 2021年度第2回国際関係学部教授会議事録	○

2023年度 自己点検・評価シート 根拠資料一覧

組織名

国際関係学部

基準 (シートNo.)	根拠資料No.		根拠資料の名称	提出 区分
	項目No.	記号		
5. 学生の受け入れ (NF0501)	0502	a	国際関係学部0502a: 2022年秋学期学生コメント・シート(一高)	△
	0502	b	国際関係学部0502b: 20211026情報交換会(中部大学関係者)出席一覧	○
	0502	c	国際関係学部0502c: カリキュラム・ポリシー記入表	○
	0502	d	国際関係学部0502d: ディプロマポリシー国際関係学部最終案	○
	0502	e	国際関係学部0502e: 国際学科カリキュラムツリー(23.03.17提出版)	○
	0502	f	国際関係学部0502f: 2022年度第13回国際関係学部教授会議事録	○
	0503	a	国際関係学部0503a: 2021年度第7回国際関係学部教授会議事録	○
6. 教員・教員組織 (NF0601)	0602	a	国際関係学部0602a: 2022年度国際関係学部全在生(取り扱い注意)	△
	0602	b	国際関係学部0602b: 2022年度第6回国際関係学部教授会議事録	○
	0602	c	国際関係学部0602c: 2021年度第6回国際関係学部教授会議事録	○
	0602	d	国際関係学部0602d: 2020年度第6回国際関係学部教授会議事録	○
	0603	a	国際関係学部0603a: 【最新】国際関係学部昇格基準(20120718教授会承認)	○
	0604	a	国際関係学部0604a: 2022年度FD活動報告書	○
	0604	b	国際関係学部0604b: 2021年度FD活動報告書	○
	0604	c	国際関係学部0604c: 第5回SDGs研究会ポスター_2022.10.07	○
	0604	d	国際関係学部0604d: 2021年度第1回国際関係学部セミナー・新入生歓迎企画講演会申し込みフォーム	△
	0604	e	国際関係学部0604e: 2021年度第1回国際関係学部セミナー・新入生歓迎企画講演会申し込みフォーム	○
	0604	f	国際関係学部0604f: 2021年度第1回国際関係学部セミナー開催記録 国際関係学部HP https://www.chubu.ac.jp/news/15133/	○
	0604	g	国際関係学部0604g: 2021年度第2回国際関係学部セミナー・新入生歓迎企画講演会申し込みフォーム	△
	0604	h	国際関係学部0604h: 2021年度第2回国際関係学部セミナー・新入生歓迎企画講演会ポスター	○
	0604	i	国際関係学部0604i: 2021年度第2回国際関係学部セミナー開催記録 国際関係学部HP https://www.chubu.ac.jp/news/14825/	○
	0604	j	国際関係学部0604j: 2022年度第1回国際関係学部教授会議事録	○
	0604	k	国際関係学部0604k: 2021年度第1回国際関係学部教授会議事録	○
	0604	l	国際関係学部0604l: 2020年度第1回国際関係学部教授会議事録	○
	0604	m	国際関係学部0604m: 2022年度教員活動重点目標・自己評価シート	△
	0605	a	国際関係学部0605a: 国際関係学部所属教員(生年月日含む)	△
	0605	b	国際関係学部0605b: 人事検討WG(21.08.31)議事次第_配布資料目次	△
0605	c	国際関係学部0605c: 21.08.02_国際学科_人事計画書	△	
0605	d	国際関係学部0605d: 人事計画書(21.08.23案)	△	
0605	e	国際関係学部0605e: 2022年度国際関係学部各種委員会等担当名簿	○	
7. 学生支援 (NF0701)	0702	a	国際関係学部0702a: 2022年度第4回国際関係学部教授会議事録	○
	0702	b	国際関係学部0702b: 2021年度第1回国際関係学部セミナー・新入生歓迎企画講演会申し込みフォーム	△
	0702	c	国際関係学部0702c: 2021年度第1回国際関係学部セミナー・新入生歓迎企画講演会2021ポスター	○
	0702	d	国際関係学部0702d: 2021年度第1回国際関係学部セミナー開催記録 国際関係学部HP https://www.chubu.ac.jp/news/15133/	○
	0702	e	国際関係学部0702e: 2021年度第2回国際関係学部セミナー・新入生歓迎企画講演会申し込みフォーム	△
	0702	f	国際関係学部0702f: 2021年度第2回国際関係学部セミナー・新入生歓迎企画講演会ポスター	○
	0702	g	国際関係学部0702g: 2021年度第2回国際関係学部セミナー開催記録 国際関係学部HP https://www.chubu.ac.jp/news/14825/	○
	0702	h	国際関係学部0702h: SA採用申請書(2022)_国際関係論	△
	0702	i	国際関係学部0702i: SA採用申請書(2022)_国際法	△
	0702	j	国際関係学部0702j: Tora-Net(Web学生サービスシステム)指導報告書	△
	0702	k	国際関係学部0702k: 2022年度修学上の配慮依頼文書	△

2023年度 自己点検・評価シート 根拠資料一覧

組織名	国際関係学部
-----	--------

基準 (シートNo.) (NF0701)	根拠資料No.		根拠資料の名称	提出 区分
	項目No.	記号		
	0702	l	国際関係学部0702l: 2022年度国際関係学部学生名簿	△
	0702	m	国際関係学部0702m: 2022年度退学者についての意見書	△
	0702	n	国際関係学部0702n: 2022年度臨時・第1回～第13回国際関係学部教授会議事録	○
	0702	o	国際関係学部0702o: 2021年度第1回～第13回・臨時国際関係学部教授会議事録	○
	0702	p	国際関係学部0702p: 2020年度第1回～第13回国際関係学部教授会議事録	○
	0702	q	国際関係学部0702q: 2022年度国際応用演習A授業計画	○
	0702	r	国際関係学部0702r: 2022年度スタートアップセミナー授業計画	○
	0702	s	国際関係学部0702s: 2022年度国際専門演習A・B講義要綱	○
	0702	t	国際関係学部0702t: 2021年度国際専門演習A・B講義要綱	○
	0702	u	国際関係学部0702u: 2020年度国際専門演習A・B講義要綱	○
	0702	v	国際関係学部0702v: 国際関係学部ハラスメント研修の実施について	○
	0702	w	国際関係学部0702w: 2022年度インターンシップA出席と課題提出状況	△
	0703	a	国際関係学部0703a: Tora-Net (Web学生サービスシステム) 指導報告書	△
	0703	b	国際関係学部0703b: 2021年度国際基礎演習振り返りFD資料	△
0703	c	国際関係学部0703c: 2021年度国際応用演習A振り返りFD資料	△	
8. 教育研究等環境 (NF0801)	0802	a	国際関係学部0802a: 2021年度 第6回 国際関係学部教授会 議事録	○
	0805	a	国際関係学部0805a: 2022年度 第1回 国際関係学部教授会 議事録	○
	0805	b	国際関係学部0805b: 2021年度 第9回 国際関係学部教授会 議事録	○
	0806	a	国際関係学部0806a: 2022年度 第3回 国際関係学部教授会 議事録	○
	0806	b	国際関係学部0806b: 2022・2023年度以降における教育研究に係る学部等重点事業計画	○
0806	c	国際関係学部0806c: 2020年度 第10回 国際関係学部教授会 議事録	○	
9. 社会連携・社会貢献 (NF0901)	0902	a	国際関係学部0902a: 2022年智識の森開放講座オンラインセミナーポスター	○
	0902	b	国際関係学部0902b: 令和4年度春日井市市民環境アカデミー	○
	0902	c	国際関係学部0902c: 2021年度 地域連携講座 (中部大学HP)	○
	0902	d	国際関係学部0902d: 2021年度 ジュニアセミナー地域連携・生涯学習 (中部大学HP)	○
11. 大学独自の評価項目 (NF1101)	1120	a	国際関係学部1120a: 国際関係学部教授会資料 (学部HP・要パスワード) https://www3.chubu.ac.jp/international/faculty_staff/documents/	○
	1120	b	国際関係学部1120b: 2022年度臨時・第1回～第13回国際関係学部教授会議事録	○

提出区分 … ○: 本シートと一緒に提出する資料

●: 提出するが評価者以外の閲覧を不可とする

△: 現部署で保管